

わあ、本物みたい。

ガーコ(み)ボクの星座はおうし座だよ!

能登町
いいところめぐり
Vol.6

石川県柳田星の観察館「満天星」編

- 開館時間 午前9時30分～午後5時 (観望会など夜の利用も可)
- 休館日 毎週木曜日
- 住所 上町口部-1-1
- 問い合わせ ☎ 76-0101 FAX 76-0098



まんてんぼし 満天星へ行ってみよう!



今回のナビゲーターは
このふたり!

平成5年4月16日にオープンして以来、県内外から年間約1万人が訪れる「星の観察館 満天星」。ここでは能登の星空とふれあったり、神秘的なプラネタリウムを体験することができるんだ。今回ボクと一緒に「満天星」を紹介してくれるのは小惑星 Yanagida からやってきた「まんてん仮面」! 星のことならなんでも知ってるんだよ。まんてん仮面と一緒にこの施設のいいところを紹介するからね!



おっきいなあ〜!

これが県内で一番大きな、口径60センチの反射型望遠鏡だよ! 人間の7,000倍以上の光を集める能力があるんだって。この望遠鏡を使って、満天星ではこれまでに3つの小惑星を発見して『Noto』『Koikeda』『Yanagida』という星の名付け親になっているんだ!



宇宙にいるみたあ〜い!

正面玄関から入ると、広いホールがあって、大きなスクリーンや、満天星で発見された小惑星の紹介コーナーがあるよ。それから、直接手で触れられる本物のいん石もあるんだ!



カジッ!



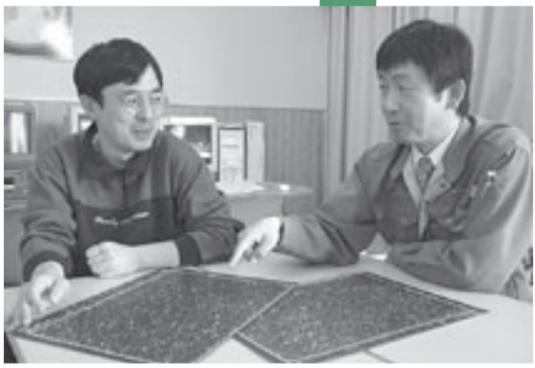
直径12メートル! 一度に100人が見ることができる「満天星」自慢のプラネタリウム! 星座って全部で88個あるってみんな知ってた? 季節に合わせてたいろんな星座や、夜空の物語などを楽しむことができるんだよ。1回の投影時間は約45分。現在、過去、そして未来の星空も映し出すことができるんだって! 新婦が生まれた日と同じ星空をこのドームに映しだして結婚式をしたカップルもいるんだって! ロマンチックだよなえ!

アストロコテージにはラジオを聞きながら星の観察ができる天体ドームがついてるよ!



満天星のとなりには、星形の屋根をした宿泊施設「アストロコテージ」があるんだ。6棟のうち3棟には天体観測ドームがついてるんだって。一晩中、星空を眺めながら過ごすこともできるんだよ。

「星の観察館 満天星」の職員、室石英明さんと土川啓さんにお話を聞きました!



Q. 満天星のいいところはどこですか?
実際の星を見るのに大変適しているところが自慢ですね。また県内の天文施設(プラネタリウム・天文台)で専門の解説員が常時いるのはここだけなんです。それから満天星は県内で新しい星を発見した唯一の施設でもあるんです。

Q. 今までに大変だったことは?
1994年、木星にほうき星が衝突するという現象を目撃しようと大勢の人が満天星に集まったのですが、当日の天気は曇りで、その瞬間を見ることができませんでした。有線テレビで生中継をしていて、放送時間を延ばしながらがんばったのですが、結局放送することもできませんでした。ところが、みんなが解散した後、空がきれいに晴れたのです。あの時は大変でしたね。

Q. 能登町のみなさんに満天星のPRを!
『星ってなんか難しいなあ〜』と感じる方も多いようですが、星を眺めて『きれいなあ』と思って感じるだけでいいのです。星を見たその日だけでも、感動してもらえればそれでいいのです。ぜひ満天星で「生」の星にふれあってください。プラネタリウムを見ながら眠ってもらってもいいのです。リラックスできる空間として、癒しの空間としてぜひ利用してみてください。

か-つとまんてん仮面の百木才日記

今日は一晩中見てくれてありがとう! ところで、星って何個あるの? まんてん仮面。

太陽系だけでも10万個以上、銀河系には2千億個、それ以外に宇宙全体では...? という、実は数えきれないんだよ。

そうなの!? じゃあ、子どもたちにも「宇宙人」っているの? って聞かれたらなんと答えるの?

その子を見て「まずここに1種類はいますよ。君たちも宇宙人なんだよ。教えてあげよう。わたしも宇宙人なんだからね。」

宇宙人って他にもいるの?

いると思うよ。でも今のところは難しいかな。果てなく遠い星にいるから、それまでに地球から届くかな、ちがうかもしれない...。でも、限りある資源を大切にしよう。みんなが地球を守ってあげれば、将来、会えるかもね!

そうかあ〜! じゃあ、それまでこの満天星に来て、宇宙やボクたちの未来を感じてほしいなあ。

古代米の収穫にチャレンジ!

▶初めのうちは恐る恐る「はざ」に登った児童も慣ればこのとおり!



真脇小学校の児童たちが9月28日、真脇遺跡体験村の体験学習「古代米の稲刈り」に挑戦しました。児童たちは地域の自然を学ぶことを目的として春の田植えから参加しています。この日は、地元有志のみなさんと一緒にカマを手にとり田んぼに入り、大きく育った黒米の稲穂を自分たちの手で刈り取りました。収穫した稲は「はざ」にかけられ作業は終了しました。

その後、体験村の職員の方が準備した赤米のおはぎを参加者みんなで味わいました。国谷翔汰くん(3年)は「田植えの時はまっすぐ植えるのが大変だったから稲刈りの方が楽しかったな」と話していました。

あなたの運転マナーは大丈夫?

▶「ゆっくり」にかけて、「公浴剤」と「甘栗」を手渡し安全運転をアピール!



秋の全国交通安全運動に合わせた街頭キャンペーンが9月26日、松波地内の国道249号松波・鶴島バイパスで行われ、内浦レディドライバークラブの会員や能登警察署員など25人がドライバーに安全運転を呼びかけました。

会員たちは「ゆっくり走ろう能登の道」のスローガンにちなんだ品物やチラシなどを手渡ししながら、早めのライト点灯や、高齢者に対する思いやり運転を呼びかけました。用意された100人分のチラシなどは約30分で配り終えました。みなさんも正しい交通マナーを習慣づけて安全運転を心がけましょう。

天まであがれ! 第1回全国凧あげ能登大会

凧あげ愛好家たちが県内外から集う全国凧あげ能登大会が10月16日、柳田植物公園で開催され約340人が出場しました。前日からの雨も上がり、澄み切った能登町の大空に、思い思いの絵が描かれた凧が天高く舞い上がりました。

大会は3部門に分けて行われました。親子児童の部では、ひとり悠々と凧を操る小さな子どもたちに審査員が感心する場面も見られ、全国有名凧の部では、全国から集まった参加者たちが自慢の珍しい凧をあげて観客を喜ばせました。また、糸を切り合う「けんか凧」の妙技も披露され会場を盛り上げました。

町内の11チームがエントリーした能登ふれあい凧の部では、風が弱まる中、どのチームもいい風が来るのを待つなどして、なんとか凧をあげようと会場中を駆け回っていました。中でもチームワークの良さが目立った「蒲公英の会」にこの部門の最優秀賞が贈られました。



▲みんなで力を合わせ、凧糸を持って走る! 走る!

◀見事に描かれた6畳凧の数々、この他にも連凧や六角凧、骨組みのないふとん凧など、さまざまな凧が訪れた人の目を楽しませました



▲会場内では「きのこまつり」も同時開催され、きのこの展示や競り市などが開かれ威勢の良いかけ声が飛び交いました



◀大会前日の15日、国民宿舎やなぎだ荘で行われた前夜祭も参加者の楽しみのひとつ! 恒例の凧オークションでは、変わり凧や手のひらサイズの凧などたくさんの凧が競りにかけられました

恋路の地が生んだ芸術家たち

▶ロビーが美術館に大変身!



恋路作家クラブによる「ラプロ4人展」が10月7日から11日までの5日間、ラプロ恋路で開催され、約300人が来場しました。この作品展は、恋路地区にゆかりのある作家たち4人が集まり、今回初めて開かれたものです。指一本と黒インクのみを使って描かれた一指画や水墨画、のど縄文焼きの作品などが展示、即売され、縄文焼きが当たる抽選会コーナーも設けられるなど、訪れた観客の目を楽しませています。

作品を出展した南山芳朗さん(松波)は「喜寿を迎えた記念に参加させていただきました」と話し、会員や観客の皆さんと共に4人展の開催を喜んでいました。

きれいな海も近くで見ると..

▶肌寒い天候の中、授業の一環として海岸清掃を行いました



松波中学校3年生の生徒たちを中心として9月24日、布浦地区で海岸清掃のボランティア活動を行いました。生徒たちは波消ブロックの周辺や砂浜に漂着していたさまざまなゴミを丁寧に分別しながら拾い集めて、用意されたゴミ袋はすぐにいっぱいになっていました。

小学生の時にも、同じ場所で海岸清掃のボランティアに参加していた生徒たちは「前よりもゴミの種類も量も増えている気がする」と話していました。能登のきれいな海岸線を守る活動に一役買った生徒たち。環境を守る大切さを身をもって感じていたようです。

なごみがオープン1周年!

▶室谷さん(中央)は20mプールの1時間かけて15往復するそうです



昨年10月3日にオープンした能登七見健康福祉の郷「なごみ」の1周年記念式典が10月1日に行われました。健康増進や世代間交流の場として、温泉、サウナ、温水プール、トレーニングルームなどを備えた「なごみ」は、1年間で延べ95,000人に利用されました。式典では、くす玉が割られた後、年間最多利用者である室谷伸吉さん(76歳、時長)に感謝状と記念品が贈られました。

室谷さんは、奥さんと一緒に1年間で200回近く利用しており、「水中歩行を続けていると腰痛も良くなった」と元気に話をしていました。

楽しく運動して健康に!

▶ワンポイントゲートボールに挑戦



老人クラブ能都支部のスポーツ大会が9月28日に能都体育館で行われ、能都地区28の老人クラブから約300人が参加しました。

大会は、地域ごとに6チームに分かれて個人競技や団体競技など8種目が行われました。またアトラクションとして、ひばり保育所の園児が元気に踊りを披露しました。参加者は、拍手や歓声に包まれて笑顔一杯にプレー。楽しく体を動かして、他のクラブとの交流を深めていました。

大会成績は、鵜川・瑞穂チームが優勝し、2位が宇出津Bチーム、3位が高倉チームという結果でした。

1455柱の御霊を慰める

代表 ▶玉ぐしをささげる遺族会連合会の



戦没者追悼式・慰霊式が、10月13日に内浦第二体育館で行われ、参列者や関係者など約400人が出席しました。合併して初めて行われた追悼式・慰霊式は、日清戦争以来の1455柱の霊を慰めるものです。

追悼式では、持木町長が「今日の繁栄の影に、尊い犠牲があったことを忘れず、次の世代に語り継いでいきます」と式辞を述べました。追悼式の後に行われた慰霊式は神式で行われ、参列者は次々と玉ぐしをささげて御霊を慰めました。終戦から60年が過ぎ、戦争の記憶が薄れていく中で、決して忘れてはいけないものがあることを伝える式となりました。

4人のプロとテニスを楽しむ!

▶プロ4人によるエキジビジョンマッチでは華麗なプレーが続出



神和住純杯エンジョイテニスフェスティバル'05が10月9・10日に能都健民テニスコートで行われました。テニスを楽しむことを目的に、能登町ゆかりの元プロテニスプレーヤー神和住純氏をはじめ、平井健一氏、澤松奈生子氏、長塚京子氏の元プロプレーヤーが招待され、テニス教室や模範試合、ミックスダブルス戦などが行われました。プロ4人による模範試合では、その一つ一つのプレーに観客は魅了され、大きな拍手が送られました。

大会には県内外から80人が参加し、試合やプロとの交流など、思い思いにテニスを楽しみました。

イカのまち! 食べて遊んで「イカす会」



▲イカダレースには13隻がエントリー。レース部門は「能都北辰高校小木分校2年生」、デコレーション部門は「曳き舟と伴旗祭り」がそれぞれ優勝



◀恒例のイカのつかみ取りに挑戦、スミで真っ黒になりながら水槽を泳ぐイカを追いかけていました

▼向かい合っていざ勝負! 集まった300人がいっせいにじゃんけんぽん!



能登町産業フェスティバル「イカす会」が10月2日、小木港周辺を会場として開催され約3,000人が訪れました。小木地区の特産品であるイカをメインにしたこのイベント。イカ寿司やイカのめった汁など、イカづくしの模擬店がずらりとならび、恒例の「生きたイカのつかみ取り」には100人が参加するなど大いに賑わいました。

会場では、イカダレースやカラオケ大会に加え、能登海洋深層水を使った無料の足湯コーナーも設けられるなど、さまざまなアトラクションや体験メニューが行われました。当日は小雨も混じるあいにくの天候となりましたが、子どもからお年寄りまで一緒にのんびり楽しめる1日となりました。